

海運の重要性を学校教育の場で  
～自動車の生産から輸送を通じて海運を学ぶ～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運のことを取り上げていただくよう、海事都市を中心にお願いをしており、地元の海事関連施設と組み合わせた見学会等を実施しております。

今般、川崎汽船と共催で、12月15日（金）に愛知県津島市立神島田小学校の5年生約90名を対象とした愛知県の海事関連施設等の見学会を開催しました。昨夏の豊橋市での自動車運搬船と輸入車整備施設見学会に続き工業生産と貿易をテーマに、自動車の生産・物流に船が大きな役割を担っていることを伝えるために開催したものです。

まず、自動車部品が運ばれてくる飛島コンテナ埠頭にて、同社社員から、海外と日本をつなぐ名古屋港の役割や特色について説明を受けました。また、川崎汽船 犬飼船長から暮らしを支える海運の重要性や船員の仕事について、クイズを交えた講演があり、港や海運の役割について理解を深めました。さらに、構内に蔵置されている様々な種類のコンテナや自動化された構内荷役設備を見学するとともに、接岸中の迫力ある大型コンテナ船を目の当たりにしました。



次に見学したトヨタ自動車名港センターでは、映像資料にて自動車運搬船により完成車が海外へ輸出されることや船への積み込み方等について学ぶとともに、ヤード一面に並ぶ輸出車の壮観な風景と巨大な自動車運搬船を屋上から見ることができました。

最後に、トヨタ自動車高岡工場にて、船によって運ばれた部品が愛知県の主要輸出品目である自動車に組み立てられる工程を見学しました。

移動中のバス車内では小学生から、「今まで乗った中で一番大きな船はどのくらいか」「どうして船員になろうと思ったのか」など様々な質問が犬飼船長に寄せられたほか、「私たちの生活に必要なものの多くは海外から輸入されており、そのほとんどが船によって運ばれていることを知ることができた」とのコメントがあり、海運が日々の生活と密接に関わっていることへの理解を深める機会となりました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

